

2024年3月19日

「学長のことば」

中野 敬一

本日、神戸女学院大学を卒業される皆さん、大学院を修了される皆さん、おめでとうございます。また、ご家族の皆様、ご息女のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。

卒業生の皆さんはこの学び舎から新しい場へと旅立つ日を迎えられました。ここに至るまで日々研鑽に励んでこられたことを讃えます。特に多くの皆さんは、コロナ禍により通常とは大きく異なる形で大学生活を始められました。入学式も行われず、キャンパスに集うこともできず、教職員や友人、先輩と直接出会うこともなくオンライン授業が始まり、戸惑いや不安、焦りを何度も覚えられたことでしょう。幾多の困難を乗り越え、学生生活を継続させて勉学と研究に励み、今日の日を迎えられたことに深く敬意を表したく存じます。

コロナ禍において「こんなはずではなかった」と嘆き悲しまれた方も多かったと思います。「掛け替えのない貴重な時間が奪われてしまった」という声も多く伺いました。それはある意味で事実であり、このような時期にご自身の学生時代が重なってしまったことを残念に思われたことも理解できます。

しかしながら、すでに皆さんが気付かれているように、この経験を通じて皆さんが得たことは決して少なくないと思います。履修登録、単位、講義、ゼミ、実験といった用語も正確に掴めないまま、文字通り手探りで新たな生活を始められました。もちろん、私たち教職員も支援に全力を尽くしましたが、何と言っても新入生でしたから本当に大変な苦労をされたと思います。気楽に相談できる友人もいない状況ではなおさらのことです。

このときの経験は間違いなく皆さんそれぞれの忍耐力や対応力を高めていることでしょう。状況変化に応じて行動できる人に成長されたと思います。困難を乗り越えて得たものは決して少なくありません。本当によく頑張られました。自信をもってください。

「あの時の経験があるから」と語ることが必ずできることでしょう。この経験が無駄になることはありません。

さらに皆さんは物事を多面的・多角的に見ることの大切さを実感されたと思います。コロナ禍では幅広い知見が必要とされました。活動制限をしながらも経済活動を維持するためにはどうすればよいか、教育現場での学びの保障をどうするかといった問題は一つの分野からだけでは判断することはできませんでした。人文、社会、自然、文化、芸術など様々な

分野から物事を捉えることは不可欠だったのです。

もとより神戸女学院大学はリベラルアーツ教育を教育の柱に据えています。物事を多角的な視点で捉えることの大切さを私たちは再認識しました。あわせて、専門性が重要であることについても確認し、正しい知識が無ければ誤った方向へと導かれることを目の当たりにしました。専門的な知識と広い視野、多角的な視点こそが、社会の運命を握っていたといっても過言ではありません。神戸女学院大学はリベラルアーツ教育と専門教育を融合させた教育を行っていますが、この教育は皆さんの将来を支えることでしょう。

さて、以上のような貴重な学びと経験をされた皆さんを「愛神愛隣」の標語を掲げる神戸女学院の卒業生として社会に送り出します。「愛神愛隣」、つまり「神を愛し、隣人を愛なさい」という言葉はキリスト教の教えを端的に表す言葉です。

神を愛するとは、神が望まれることを我々が行うことです。神が望んでおられることというのは、聖書によると、愛、思いやりに満ちた世界の実現です。そして、隣人を愛するというのは、困難な状況にある人に愛をもって接するということです。つまり、愛神愛隣とは、この世界が愛に満ちた世界となるように、困難な状況にある人に寄り添い、思いやりを示しなさいという教えなのです。具体的には隣人を助けるということです。

隣人を助けるというのは何を指すのでしょうか。倒れている人を助け起こしたり、声をかけたりするなどの直接的な助けはもちろん、募金などの間接的な助けもあります。あるいは、自分の研究を通じてより良い社会の実現に努めることや、作品を通じて悲しみにある人を慰めることも隣人愛といえるでしょう。困難な状況にある隣人を思い浮かべながら行う場合と、自分の満足だけで行う場合では大きく異なると思います。

皆さんも隣人を意識する歩みを続けていただきたいと思います。ここで得られた学びや様々な経験がご自分の幸せのためだけに用いられるのではなく、隣人の幸せや喜びにも用いられることを願っています。

皆さん、どうかお元気で。神戸女学院大学はあなたの母校です。いつでも帰ってきてください。何を考え、何を学び、何を望んだか、それを思い出させてくれる場所です。在学していた時よりも、卒業後のほうがこのキャンパスの素晴らしさを実感したという卒業生は少なくありません。自分が成長したことの一つの証といえるでしょう。

150年前、この国の女性の活躍を願い、多くの素晴らしい卒業生を輩出してきた神戸女学院大学はその姿勢を変えることなく、皆さんを応援しつづけます。皆さんの一人おひとりうえに、またご家族・ご関係の皆様にも神様の祝福が豊かにありますよう心から祈りつつ、私からのことばといたします。